

大学・高専機能強化支援事業（支援 1：学部再編等による特定成長分野への転換等に係る支援）
実施状況報告書

選定年度	令和5年度	学校コード	F113310102966	設置等相機関	獣医学部グリーン環境創成科学科
大学名	北里大学	設置区分	私立		
学校種	大学	都道府県	東京都	事業計画名	北里大学獣医学部グリーン環境創成科学科（仮称）の設置

1. フェーズ別の計画及び取組状況

フェーズ別の事業計画と取組状況、年度別の自己評価を記載してください。

当初計画から変更又は追加した取組がある場合は「取組状況」に取組を赤字で記載してください。また、計画変更申請をした場合は「取組状況」に承認日を赤字で記載してください。

計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある等、自己評価が下位2つの場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

事業期間	事業計画	取組状況	自己評価、課題（理由）とその対応	
フェーズ1	1-① 令和5年6月 新学科人材育成のための社会ニーズ調査のための行政および地域企業との協議調整 1-② 令和5年6月 旧看護学部収容の新学科対応収容への改修を検討 1-③ 令和5年9月 社会における人材のニーズに関する協議を地域企業と実施 1-④ 令和5年9月 新学科学生増強に向けたニーズアセスメント調査 1-⑤ 令和5年10月 新学科教育体制の教員確保 1-⑥ 令和5年10月 新学科方針の策定 1-⑦ 令和5年10月 新学科教育体制とガリキュラムを検討 1-⑧ 令和6年2月 新学科入学試験要項を検討	1-① 令和5年6月 新学科人材育成のための社会ニーズ調査のための行政および地域企業との協議調整 1-② 令和5年6月 旧看護学部収容の新学科対応収容への改修を検討 1-③ 令和5年9月 社会における人材のニーズに関する協議を地域企業と実施 新学科学生増強に向けたニーズアセスメント調査 1-⑤ 令和5年10月 新学科教育体制の教員確保 1-⑥ 令和5年10月 新学科方針の策定 1-⑦ 令和5年10月 新学科教育体制とガリキュラムを検討 1-⑧ 令和6年2月 新学科入学試験要項を検討 1-⑨ 令和6年4月 文部科学省へ「学部の学科の設置」届出予定（R6.3.29） 【改組内容】 令和5年11月 グリーン環境創成科学科の設置に関する事前相談を行い、令和6年1月 設置に関する事前相談の結果届出「可」の通知を受け、令和6年4月に「学部の学科の設置」届出を行う計画である。	R5年度自己評価	【3】計画を十分に実施している。
			R6年度自己評価	リストから選択してください。
フェーズ2 前期		2-② 令和6年1月 新学科の教育研究に係る機器・什器などの整備品の検討（R6.3.29） 【改組内容】 令和6年1月より新学科の改修工事計画に合わせ教育研究に係る機器・什器などの整備に関する検討をフェーズ1の期間に前倒しで始めた。	R5年度自己評価	【3】計画を十分に実施している。
認可申請又は届出	令和6年4月 獣医学部グリーン環境創成科学科（仮称） 学科の設置届出予定 令和6年4月 獣医学部動物資源科学科 定員減の届出予定	令和6年4月 獣医学部グリーン環境創成科学科（仮称）の設置届出予定 令和6年4月 獣医学部動物資源科学科定員減の届出予定		
フェーズ1 後期		1-① 令和5年6月 旧看護学部収容の新学科対応収容への改修を検討（R6.3.29） 1-③ 令和5年9月 新学科学生増強に向けたニーズアセスメント調査（R6.3.29） 1-⑤ 令和5年10月 新学科教育体制の教員確保（R6.3.29）	R6年度自己評価	リストから選択してください。
フェーズ2 中期	2-① 令和6年5月 新学科対応のための旧看護学部収容改修 2-② 令和6年5月 新学科整備品の検討 2-③ 令和6年6月 新学科の広報を実施 2-④ 令和6年6月 取得可能な資格の検討 2-⑤ 令和6年6月 オープンキャンパスによる学科広報を実施	2-① 令和6年5月 新学科対応のための旧看護学部収容改修 2-② 令和6年5月 新学科整備品の検討 2-③ 令和6年6月 新学科の広報を実施 2-④ 令和6年6月 取得可能な資格の検討 2-⑤ 令和6年8月 オープンキャンパスによる学科広報を実施 2-⑥ 令和7年4月 新学科開設 □ □	R6年度自己評価	リストから選択してください。
開設又は定員増	令和7年4月 獣医学部グリーン環境創成科学科（仮称）開設予定（入学定員100名、農学関係） 令和7年4月 獣医学部生物環境科学科の学生募集停止（令和10年度廃止予定）	令和7年4月 獣医学部グリーン環境創成科学科開設予定（入学定員100人、農学関係）		
フェーズ1 後期			R7年度自己評価	リストから選択してください。
フェーズ3	3-① 令和7年4月 新学科の教員配置と研究室整備 3-② 令和7年4月 新入生を対象とした入学に関するアンケート調査の実施 3-③ 令和7年5月 新学科の広報を実施 3-④ 令和8年4月 新学科専門科目の準備と対応への取り組み 3-⑤ 令和8年4月 新入生を対象とした入学に関するアンケート調査の実施 3-⑥ 令和9年4月 新入生を対象とした入学に関するアンケート調査の実施 3-⑦ 令和10年4月 新学科4年生への就職支援の取り組み 3-⑧ 令和10年4月 新入生を対象とした入学に関するアンケート調査の実施 3-⑨ 令和11年2月 第1回卒業生への教育・研究に関するアンケート調査の実施□		R7年度自己評価	リストから選択してください。
			R8年度自己評価	リストから選択してください。
定員減又は学部等の廃止	令和11年3月 獣医学部生物環境科学科 学科廃止予定		R9年度自己評価	リストから選択してください。

フォローアップ対象年度	令和5年度	大学名	北里大学
-------------	-------	-----	------

2.申請資格の確認

該当しない場合は、チェックしてください。

- i) 学生募集停止中の大学

該当無し

☒ チェック
- ii) 学校教育法第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学

該当無し

☒ チェック
- iii) 「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた大学

該当無し

☒ チェック
- iv) 設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反）」が付されている大学

該当無し

☒ チェック
- v) 大学、短期大学及び高等専門学校等の設置等に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）第2条第1号又は第2号のいずれかに該当する者が設置する大学

該当無し

☒ チェック

3.申請要件の取組状況

令和5年度 の取組が当初の計画通りに進んでいる、又はチェック項目に該当する場合はチェックしてください。計画通りに進んでいない、又はチェック項目に該当しない場合は右欄に課題（理由）とその対応を記載してください。

- ①

高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた大学であること。なお、新設予定の大学で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。

確認を受けている

☒ チェック

確認の対象に該当しない

☐ チェック
- ②

十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。

計画通りに進んでいる

☒ チェック
- ③

産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び大学での学修に必要な資質・能力等を評価する入学者選抜が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な資保証の枠組みを活用するなど出口における資保証にも十分留意することが重要。）

計画通りに進んでいる

☒ チェック
- ④

特定成長分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。

計画通りに進んでいる

☒ チェック
- ⑤

計画の対象となる学部等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。

計画通りに進んでいる

☒ チェック
- ⑥

特定成長分野に係る学部の設置等（学部若しくは学科の設置又は収容定員の増加）による組織の変更を伴う学部再編等の計画であること。

計画通りに進んでいる

☒ チェック
- ⑦

社会において具体的な人材ニーズが現に存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る学部等の設置等に取り組む計画であること。

計画通りに進んでいる

☒ チェック
- ⑦

学部又は学科の設置を行う場合、地域における特定成長分野の人材を必要としている複数の企業等と設置構想に関する事前協議を行う計画であること。

計画通りに進んでいる

☒ チェック
- ⑧

入学定員が20名以上増加する計画であること。

計画通りに進んでいる

☒ チェック
- ⑨

事業計画の進定があった日から4年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる学部等の設置等を行うことを目指す計画であること。（本事業の申請時に既に設置認可申請又は届出を行っている場合を除く。）

計画通りに進んでいる、又は設置等を行った

☒ チェック
- ⑩

大学の総収容定員充足率（在籍学生数の収容定員に対する割合）について、計画の対象となる学部等の設置等に係る設置認可申請又は届出までに80%を満たす計画であること。

計画通りに進んでいる

☒ チェック
- ⑪

フェーズ3の助成期間終了時までに、大学全体の外部資金獲得額を申請時点の平均（過去5年間の中央値3年分の平均）に本事業による支援額の2.5%を上乗せした水準以上とする計画であること。

計画通りに進んでいる

☒ チェック

フォローアップ対象年度	令和5年度	大学名	北里大学
-------------	-------	-----	------

⑫

計画の対象となる学部又は学科において、自大学以外の機関との連携を通じた教育体制の整備と教育の実施及び多様な入学者の確保に向けた取組を行う計画であること。

計画通りに進んでいる

☒ チェック

⑬

選定された大学は、公選要領に定める申請要件を満たす高い教育等に向けた計画の具体化に努めるとともに、その進捗報告を行うこと。また、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構法第 十六条の三に規定する助成業務の実施に関する方針（令和 5 年 4 月 13 日文科科学大臣認可）六（２）②に基づき機構が実施する会議に参加すること。

計画の具体化に努め進捗報告を行い、会議に参加した

☒ チェック

⑭

文部科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。

認定を受けておらず申請する意向もない

☒ チェック

4. 審査要項における確認項目の計画及び取組状況

令和5年度 の取組実績を記載し、申請時に選択した項目にチェックを入れた計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

【A：連携を通じた教育体制の整備と実施】（連携開設科目等に限らない）

- ☒ チェック
- a.企業や自治体と連携した科目（PBL等）の整備・実施
- ☐ チェック
- b.関連分野に強みを持つ地域の他大学と連携した科目の整備・実施
- ☐ チェック
- c.関連分野に強みを持つ海外大学との連携（連携した科目や交換留学プログラムの整備・実施等）

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
フェーズ 1 期間中に協議を行う予定の相模原市やJA相模原市など民間企業等と協力し、PBL型授業の導入を中心に教育体制の整備を計画する。相模原市は「さがみはら脱炭素ロードマップ」を策定し、様々な脱炭素に向けた取り組みを推進しており、関連部署による脱炭素の施策や関連法規に関する授業と諸問題に対してPBL型授業の実施を計画する。一方、JA相模原市はスマート農業や有機農業など食料生産に係る組織であることから、新しい分野に直結した実践的な教育体制の整備を推進する。一例として、カーボンニュートラルに向けた食料生産に関するプロジェクト運営などを通して、アカデミックスキルズや職業上でのコミュニケーション力を修得させるとを検討する。これらの取り組みのほか、農業関連企業や相模原市以外の自治体と人材養成の情報共有や連携を推進し、インターンシップなど実践的な教育機会を積極的に取り入れることで、教育効果を高めていく計画である。	令和5年度において、相模原市役、JA相模原およびアグリ産業としてカルビー株式会社との事前協議を行い、その中でグリーン成長分野で必要と思われる知識や技術について意見を伺った。事前協議の中で教育内容として必要と勘言いただいた項目は、農業に関する基礎から応用までの体系的な科目、エネルギーに関する基礎知識、また、環境に関する法規やカーボンニュートラルと環境保全とのトレードオフの問題やそれに伴う発展途上国や原産国との倫理的な問題などがあり、これらは科目の設置や講義内容に取り入れ、PBL等を用いた授業を行う計画である。 また、環境再生型農業に取り組む企業等との連携を模索し、インターンシップの受け入れや実践的な教育の機会を今後検討していく計画である。	協力関連機関との連携科目に関して、シラバス作成に必要な実施内容の協議を行う。

【B：多様な入学者の確保に向けた取組】

- ☒ チェック
- a.入学者選抜における科目の見直し
- ☒ チェック
- b.女子学生の確保（志願者数増）に向けた取組
- ☒ チェック
- c.地域の初等中等教育段階の学校との連携（出張授業の実施等）
- ☐ チェック
- d.社会人学生の受入れ強化に向けた取組（リカレント・リスキリングへの対応）
- ☐ チェック
- e.留学生の受入れ強化に向けた取組

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
毎年5月には地域の高等学校の進路指導教員に対して学部学科説明会を実施し、また筆者主催の進学相談会を6月から9月まで10回程度実施する。さらに広報活動、高校訪問、オープンキャンパスの際にも進学相談会を実施し、新学科の教育の特色と魅力を説明し、入学者の確保に努める。 これまで受験生を推薦してきた農業分野の実業高校、北里大学が高大連携の協定を結んでいる提携高校、特に女子高（田園調布学園中等部・高等部、カリタス女子中学高等学校、東京女子館中学校・高等学校、山脇学園中学・高等学校など）に対して、出張講義やサマースクールなどを実施し、総合型選抜や指定校推薦入試を計画するなど学生確保に向けた取り組みを実施する。これらにより女子学生の確保と地域の中学校や高等学校との連携の実現を目指す。さらに、グリーン成長分野のICTやIoTを利用したシステムは実社会で活用できる技術であるため、社会人に対する知識と技術のリスキリング教育にも取り組む計画としたい。	令和5年度はグリーン環境創成科学科の教育内容が検討中で設置に向けての構想的段階であったため、積極的に広報を実施することができなかった。 入学者の選抜に関しては、令和6年2月に入試概要と科目に関する検討を行い、入試科目を数学、理科（物理、化学、生物から一科目選択）英語の理系科目とすること、多様な学生の入学には、女子枠や編入入学試、また社会人対象の入試も取り入れることとした。また、学士編入試験を令和7年より予定しリスキリング教育にも取り組む計画とした。	新学科の教育・研究分野の構想中であり、また、設置に向けての準備期間であったため、初等中等教育機関への連携の構築や出張講義を行うことができなかった。広報活動は令和6年4月の学科設置の届出後から入学者の確保に向けた活動を行う予定。

フォローアップ対象年度	令和5年度	大学名	北里大学
-------------	-------	-----	------

指摘事項等に対する対応状況を記載してください。

区分	指摘事項等	対応状況

大学名	北里大学
-----	------

2.理・工・農学分野の学位を授与できる学部等（学士課程）の状況

[illegible]

大学名	北里大学
-----	------

3.大学（学士課程）の状況

年度				R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
大区分	小区分	項目	単位																			
学生の入学・在籍状況	春季入学	入学定員	人	1783	1944																	
		入学者数	人	1817	1962																	
	その他の学期	入学定員	人	***	***																	
		入学者数	人	***	***																	
	入学者合計	入学定員(A)	人	1,783	1,944																	
		入学者数(B)	人	1,817	1,962																	
		入学定員充足率 (B/A)	倍	1.02	1.01																	
	収容定員等	収容定員(C)	人	7811	8078																	
		編入学定員	人	***	***																	
		在籍者数(D)	人	8032	8208																	
		編入学者数	人	***	***																	
		収容定員充足率 (D/C)	倍	1.03	1.02																	

4.外部資金の状況（全学）

年度			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度
改組状況			選定－5年	選定－4年	選定－3年	選定－2年	選定－1年	選定													
項目	単位																				
外部資金獲得額	千円		1,212,606	1,462,407	1,142,892	1,111,668	1,419,556	1,352,228													

項目	単位	
申請時点の外部資金獲得額平均 （過去5年間における各年度の外部資金獲得額のうち最大額及び最小額を除いた残り3年分の平均）(E)	千円	1,258,351
本事業による助成金の額(F)	千円	1,195,000
フェーズ3の助成期間終了時まで達成する額(E+F×2.5%)	千円	1,288,226

特記事項

“2.理・工・農学分野の学位を授与できる学部等（学士課程）の状況”における“社会人学生数”は、社会人入学者選抜試験での入学者数を記載（本学学部入学者選抜試験時は、受験生本人の“職歴”等の記載を求めているため）。